

[第 1 号議案]

# 平成 28 年度事業活動報告書

社会福祉法人  
陽 光 会

## 平成 28 年度事業活動報告

### I. 理事会

日時・場所	出席者	協議内容等
(第 1 回理事会) 平成 28 年 5 月 27 日 (水) 午後 2 時～3 時 18 分 特別養護老人ホーム陽光苑	理事 鈴木輝雄 田中慎吾 鈴木理恵子 中井臣久 長友賢一 加納正弘 善積由佳 根本芳夫 監事 間島泰雄	〔議決事項〕 第 1 号議案 平成 27 年度事業活動報告について 第 2 号議案 平成 27 年度収入支出決算報告について  〔報告事項〕 ・入居者の状況について説明 ・役員任期満了及び役員体制の変更について説明
(第 2 回理事会) 平成 28 年 12 月 1 日 (木) 午前 10 時 30 分～11 時 28 分 特別養護老人ホーム陽光苑	理事 鈴木輝雄 田中慎吾 鈴木理恵子 中井臣久 長友賢一 加納正弘 善積由佳 根本芳夫 監事 間島泰雄	〔議決事項〕 第 1 号議案 定款の変更について 第 2 号議案 役員任期満了に伴う新役員の選任について
(第 3 回理事会) 平成 28 年 12 月 17 日 (土) 午後 2 時～3 時 57 分 特別養護老人ホーム陽光苑	理事 鈴木輝雄 田中慎吾 鈴木理恵子 中井臣久 渡邊 健 根本芳夫 監事 加納正弘 小山憲一	〔議決事項〕 第 1 号議案 理事長の選任について 第 2 号議案 施設長の選任について 第 3 号議案 定款の変更について 第 4 号議案 評議員選任・解任委員会の設置について 第 5 号議案 評議員選任・解任委員会運営細則 (案) について
(第 4 回理事会) 平成 29 年 3 月 24 日 (金) 午後 2 時～3 時 37 分 特別養護老人ホーム陽光苑	理事 鈴木輝雄 田中慎吾 鈴木理恵子 中井臣久 渡邊 健	〔議決事項〕 第 1 号議案 平成 28 年度収入支出補正予算(案)について 第 2 号議案 平成 29 年度事業計画(案)について 第 3 号議案 平成 29 年度収入支出予算(案)について 第 4 号議案 就業規則の変更について

	根本芳夫 監事 加納正弘 小山憲一	第 5 号議案 臨時職員就業規則の変更について 第 6 号議案 嘱託職員就業規則の変更について 第 7 号議案 育児休業規則の変更について 第 8 号議案 介護休業規則の変更について 第 9 号議案 評議員選任・解任委員の選任について 第 10 号議案 評議員候補者の推薦について
--	-------------------------	---

## II. 監事会

日時・場所	出席者	協議内容等
(第 1 回監事会) 平成 28 年 5 月 18 日 (水) 午後 2 時～4 時 45 分 特別養護老人ホーム陽光苑	監事 藤田恒雄 間島泰雄	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 27 年度事業活動の監査</li> <li>平成 27 年度収入支出決算の監査</li> </ul>

## III. 管理部門

### 1. 職員体制

介護職員は、介護保険法で定められている「日中はユニットごとに常時 1 以上の職員を途切れることなく配置すること」に則した人員配置を確保している。

平成 29 年 3 月 31 日 現在

職 種		職 種	
施 設 長	1	管理栄養士	1
副施設長	0	看 護 職	7 (3)
生活相談員	2	機能訓練士	1
介護支援専門員	2	介 護	55 (11)
事 務 職	3		

※ ( ) 内は非常勤の内訳

### 2. 職員研修

#### (1) 内部研修

研修委員会が中心となり、職員からのニーズを取り入れ、年間内部研修計画を企画推進した。研修講師は各部門や委員会が担当した。

事故防止、感染予防の研修は行政機関より定められた年 2 回の開催を行なった。  
月 1 回での開催では参加者人数の制限が出てしまうため次年度は複数回を行っていく。

#### 年間計画による研修

- 5 月 アセスメントについて
- 7 月 認知症について
- 9 月 感染予防（ノロウイルス・インフルエンザ予防）
- 11 月 褥瘡予防（体位交換）
- 12 月 事故対策
- 3 月 事故対策（事例検討）

#### その他実施した研修

- 6 月 感染予防（手洗い研修）
- 7 月 救急救命講習

## (2) 外部研修

外部研修は、研修委員会が研修情報を集約し、全体への参加呼びかけや、各部門に周知したことで、多職種がニーズに沿った参加をすることができた。また、社会福祉協議会主催の研修や日本ユニットケア推進センター主催のユニットリーダー研修等に参加できるように努めた。今年度は、近隣施設との合同研修やリーダーを対象としたマネジメント研修も行った。

- 5 月 ・栄養士連絡会（旭区給食施設栄養士連絡会）  
・京浜病院 栄耀勉強会（(医)京浜会 京浜病院 新京浜病院）
- 6 月 ・福祉施設に係る労務安全衛生に関する講習会（横浜西労働基準監督署）  
・高齢者のかかりやすい疾患（横浜市社会福祉協議会）  
・平成 28 年度「自殺対策基礎研修 I」（神奈川県精神福祉保健センター）
- 7 月 ・給食施設栄養管理研修会（旭福祉保健センター）  
・自分の考えを誠実に「伝える」技術～アサーティブコミュニケーション～（社会福祉協議会）
- 10 月 ・平成 28 年全国福祉栄養士研究会（日本栄養士会）  
・認知症の方に特化したリスクマネジメント（(公社)かながわ福祉サービス振興会）  
・第 43 回 国際福祉機器展（一般社団法人 保健福祉広報協会）
- 11 月 ・感染症対策指導者養成研修（横浜市健康福祉局）  
・「平穏死のすすめ」～穏やかな最期を迎えるには～（NPO アビフィールド日本協会）  
・介護記録の適切な書き方及び活用法とそれを支える環境整備（かながわ福祉サービス振興会）  
・ユニットリーダー研修（ユニットケア推進センター）  
・今宿ホーム合同研修「魅力ある介護職員とは」（ミノワホーム経営企画室）  
・リーダーマネジメント研修①（アイコンサルティング）

- 12月 ・対人援助の実際（横浜市高齢者福祉部 施設運営研究会）
  - ・リーダーマネジメント研修②（アイコンサルティング）
- 2月 ・横浜市消防局 応急手当普及員再講習（（公益社団法人）横浜市防火防災協会）
  - ・福祉車両安全運転講習会（社団法人 日本福祉車両協会）
  - ・福祉・介護現場における介護主任の役割とリーダーシップ（かなふく人財センター）
  - ・後輩育成担当者のための OJT 基礎研修（福祉保健研修交流センター）
  - ・リーダーマネジメント研修③（アイコンサルティング）
- 3月 ・ユニットケア研修フォーラム（日本ユニットケア推進センター）
  - ・社会福祉法人 会計セミナー 決算編（（公財）公益法人協会）
  - ・プレマネージャー研修（神奈川県社会福祉協議会）

### 3. 各委員会活動

委員会は常勤職員全員がいずれかに所属して運営に携わっている。28年度は「排泄委員会」と「入浴委員会」の情報共有と意思統一を図ることが必要とされ統合を行い「ケア委員会」として活動を行った。

#### (1) 行事委員会

季節行事の立案と実施。

#### (2) 食事委員会

食事に関わる全ての向上に向けた立案と実施。

#### (3) 広報委員会

入居者、家族、事業所、地域に向けた広報活動。

#### (4) 防災・設備・美化委員会

防災、生活空間の向上、省エネ対策に向けた立案と実施。

#### (5) 事故防止対策委員会

事故予防と再発防止に向けた立案と実施。

#### (6) 権利擁護・接遇委員会

苦情、要望に関しての立案と実施。身体拘束廃止、個人情報保護、虐待防止など入居者の権利擁護に向けた立案と実施。

職員の接遇向上に向けた立案と実施。

#### (7) 感染・褥瘡予防策委員会

感染予防に向けての全体周知、立案と実施。褥瘡の予防と治癒に向けた対応と研究。

#### (8) 安全衛生委員会

職員の労働環境の向上に向けた立案と実施。成人病予防、メンタルヘルスケア、腰痛予防を3本柱として取り組む。

#### (9) 入退所検討委員会

入退所の検討・決定・推進。

(10) 研修委員会

研修や勉強会の向上に向けた立案と実施。

(11) ケア委員会

排泄ケアの統一、紙オムツなどの消耗品、マニュアルの整備を行う。

入浴ケアの統一、手順、マニュアルの整備を行う。

#### 4. 各会議

会議は、ユニットメンバー対象のユニット会議から、各部門の役職者、代表者が出席するセクション会議まで、役割及び目的を明確にして実施した。会議は議事録に残し、全職員が共有できるようにした。会議内で PDCA サイクルに基づき、実施したことに対する評価を行うようにした。

セクション会議 (各部門の役職者、代表者が出席する会議、施設内の最高決定会議)

職員全体会議 (全職員が出席する会議)

生活支援部門会議 (生活相談員、介護支援専門員が出席する会議)

看護部門会議 (看護師が出席する会議)

栄養部門会議 (食事委員会内で実施、調理委託業者も出席する会議)

総務部門会議 (事務員が出席する会議)

主任・副主任・リーダー会議 (介護主任、副主任、ユニットリーダーが出席する会議)

ユニット会議 (ユニット職員が出席する会議)

ショートステイ会議 (ショートステイユニット、各職種が出席する会議)

#### 5. 稼働率

##### 平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月 ベッド稼働率

日付	本入所(36500 床)		ショートステイ(3650 床)		全体(40150 床)	
	実人数(人)	稼働率	実人数(人)	稼働率	実人数(人)	稼働率
H28.4 月	2961	98.7%	293	97.7%	3254	98.6%
5 月	2994	96.6%	284	91.6%	3278	96.1%
6 月	2908	96.9%	284	94.7%	3192	96.7%
7 月	2989	96.4%	274	88.4%	3263	95.7%
8 月	2958	95.4%	292	94.2%	3250	95.3%
9 月	2786	92.9%	258	86.0%	3044	92.2%
10 月	2897	93.5%	261	84.2%	3158	92.6%
11 月	2831	94.4%	306	102.0%	3137	95.1%
12 月	3052	98.5%	301	97.1%	3353	98.3%

H29.1 月	3006	97.0%	221	71.3%	3227	94.6%
2 月	2708	96.7%	258	92.1%	2966	96.3%
3 月	2941	94.9%	328	105.8%	3269	95.9%
<b>各稼働率</b>	<b>35031</b>	<b>96.0%</b>	<b>3360</b>	<b>92.1%</b>	<b>38391</b>	<b>95.6%</b>

全体の平均稼働率は 95.6%となった。その内訳として本入居の平均稼働率は 96.0%。ショートステイの稼働率は 92.1%である。

退所から新入居者の入居期間の短縮、待機者の確保、入院者が出ないための早期受診などの対応に努めたが、平成 27 年度と比較し全体の平均稼働率が-0.8%となってしまった。

今年度、ショートステイはインフルエンザの発症などで入所調整を行った月もあった。

## IV. サービス部門

### 1. 基本サービス

#### (1) 介護サービス計画（ケアプラン）

介護支援専門員 2 名が入居者別の担当を持ち、サービス計画の作成及び更新を行った。ケアカンファレンスを通じて、入居者本人、家族の要望や各部門の専門性を活かせる内容を計画に取り入れた。

カンファレンスに家族が参加していただくことが定着し、より質の高いカンファレンスが実施できた。今後も継続していく。

#### (2) 日常生活支援

##### ①食事について

栄養ケア計画に基づき、入居者の個々の身体状況に適した、食事環境や食事形態及び介助方法にて支援を実施。食事委員会や調理委託業者と連携をとり、食事が入居者にとって楽しみになっていただけよう、日常献立の種類、行事食、季節の食材等を取り入れた。リクエストメニューや地方の郷土料理などのイベント食を取入れて、入居者が、自分で選ぶ楽しみにつながるように行った。

今年度も補機続き、入居者の声を取り入れられるよう年 2 回の食事アンケート調査を実施し、サービスの質を高めた。

##### ②入浴について

一般浴、リフト浴、寝台浴で入居者の身体状況の変化に合わせた対応を行う。体調不良等で入浴ができなかった方には、状況に応じて清拭で対応した。ケア委員会と連携をとり、統一した入浴ケアの向上に努めた。機器の安全管理、衛生管理などは、業者とのコミュニケーションを密にとり、部品交換や迅速な点検修理が図られるようにした。

##### ③排泄について

個人の排泄形態に合せた対応を各ユニットで行う。可能な限り、自立支援を目指し、介護用品なども取り入れた対応をすすめる。ケア排泄委員会と連携をとり、個人に適したオムツやパット類の選定、

業者によるオムツ講習会を複数開催するなどより良い排泄ケアの取組みを行うことができた。

#### ④個別機能訓練について

作業療法士による「個別機能訓練計画」に基づいて、日々の機能維持、向上を計画的に実施。また、グループ別のリハビリ体操も日々の習慣となり、楽しんで体を動かす場が入居者の暮らしの中に定着することができた。R・E・Dという特殊なマットを使用した機能訓練も継続し、入居者の機能維持、向上に繋がっている。

#### ⑤健康管理について

看護職員を中心に入居者の健康管理を行う。

病気等の早期治療、回復を図る為、内科の回診を週1回、訪問歯科週2回、精神科月2回、眼科月1回を設け医療面での充実を図った。家族と回診医師との意見交換の場も積極的に設けた。受診が必要になった場合は、協力病院の湘南泉病院へ受診対応を行った。

- ・受診件数（家族対応含む） 277件　うち181件は湘南泉病院
- ・入院件数 50件　平均入院日数 19日

### (3) 事故防止について

事故の対策は、「事故防止対策委員会」を中心に検討会議を行い、再発防止に取り組んだ。年間を通して、ヒヤリ・ハット報告、事故報告を合わせて、308件の報告があがった。その中で、転倒・転落に関する事故やヒヤリ・ハットが全体の70%と多くの割合を占め、事故発生の場所の50%が居室内であった。薬に関する報告は7%。

事故の内容に対して予測できたものであったか、偶発的なものであったかなどカテゴリーに分けて評価する項目を事故報告書に盛り込み、再発防止の意識を高められるようにした。

事故の未然予防に重点を置き、ヒヤリ・ハット報告を多く挙げ、職員の情報共有を図った。また、ユニット会議内で個々の事故対策であがったものが実施されているかの振り返りを入れるようにした。

### (4) 感染予防について

インフルエンザ、ノロウイルス等の感染症の発症については、インフルエンザが本入居者4名、ショートステイ3名の発症が出た。ショートステイは入所の調整をする期間が発生した。随時、感染予防委員会を開催し、対応を行った。次年度は、外部からの持ち込みによる感染予防に努めていく。

### (5) 褥瘡予防について

「褥瘡予防委員会」を中心にマニュアルに沿った予防の指導を職員に実践した。

褥瘡発生者や高リスク者の評価を毎月行ない、早期の予防に努める様にした。エアマットや耐圧分散マットレスなどの介護用品も適宜、取り揃えた。

### (6) 看取り介護について

看取り介護は6名の対応を行った。マニュアルに基づいた指導、研修を実践し、医療関と各部門が一丸となって個々の終末期ケアを行うことができた。カンファレンスの充実も図った。



## (7) 年間行事・レクリエーション、イベント、クラブ活動

### ①行事について

「行事委員会」の企画、運営により、年間の行事活動を実施。

行事活動は年間行事計画に基づき開催した。

- 4 月 ・花見、お茶会
- 5 月 ・母の日
- 6 月 ・父の日
- 7 月 ・七夕
- 8 月 ・夏祭り
- 9 月 ・敬老会
- 10月 ・外出
- 11月 ・そば打ち
- 12月 ・クリスマス会、餅つき大会
- 1 月 ・初詣
- 2 月 ・節分
- 3 月 ・ひな祭り

### ②レクリエーション、イベント、クラブ活動等

レクリエーションは、ユニット単位での日々の余暇活動を行う。誕生日会、外出、調理レクなど盛り込んだ。外出は、買い物、外食、動物園やイチゴ狩りなどへユニット単位で積極的に外に出掛けることが出来た。外食など外へ出ることが難しい方には、出前などで雰囲気を変えた食事を提供した。

イベントは、2F の談話スペース、1F エントランスなどの交流スペースを活用し、アコーディオン演奏会、ハーモニカ演奏、紙芝居、手造りパン販売、お茶会、などのイベントを行った。

クラブ活動は、クラブ・レク委員会が運営の中心となり企画、推進を行った。カラオケ、テーブルゲーム等を定期的に行い、趣味活動を通じて入居者同士の交流の場が生まれ、楽しみにつながっている。

近隣保育園の園児交流会やこども神輿などの地域との交流も行なった。

## (8) 家族懇談会

前年度に引き続き、11月に家族懇談会を開催した。27家族27名の参加。施設と家族との意見交換を行い、相互の理解を深めることができた。今後も年1回実施していく。

## (9) 広報活動

「広報委員会」が企画運営を行い、施設での暮らしやトピックスを伝えられるよう広報誌「陽光だより」を毎月発行。家族や関係事業所に配布を行い、ホームページからも閲覧できるようにしている。年度末で第62号の発行を迎えることができた。ホームページは、スマートフォンやタブ

レット端末からも閲覧しやすい画面になるようシステムを追加したことでモバイルでの閲覧数も増えている。

## V. 各部門業務報告

### 総務

総務部門は、年間目標を「施設の顔となるような接遇の実施」「多職種との連携」の取組みに重点を置いた。受付窓口や電話口の心地よくお待たせしない円滑な対応を心掛けた。情報伝達は迅速かつ正確に要件を多職種につなげていけるように努めた。

請求業務、労務管理などにおいては、確認作業を手順化し、複数の目で行うダブルチェック内容の項目を増やし、ミス防止に努めた。

### 介護

入居者が安心して過ごしていけるようなサービスの提供を行った。個々の24時間の生活リズムなど過ごし方を把握して、統一したサービスが提供できるように図った。

今年度は入居者に直接かかわる職員のケアにも重点を置いた。組織体制の見直しを図り、ユニットリーダーをフォローする役割としてユニットサブリーダーを配置しユニットの活性化を行った。職員の声を拾っていくために職員目安箱を設置し役立てるようにした。介護職員の働きやすい環境をつくり、今後もより一層、入居者へのサービス向上に努めて行きたい。

### 看護

入居者の安全・安心な生活を守るように予防、予測に努めるように取り組んだ。

入居者の日々の変化に対しては、速やかに多職種と連携をとりケアカンファへとつなげるようにし、看護部門だけではなく、施設全体で動くことができるように図った。部門内でのフロア担当制を設け推進し、情報の共有、一貫性のある継続した看護ができるように努めた。

### 機能訓練

・ニーズ評価法を用いた機能訓練計画書を継続して作成していき、カンファレンスを通じて各部門、入居者、家族と内容を共有し、入居者が望む生活が出来るように支援することを目標として取り組んだ。計画書様式の変更を年度前半に前年度に引き続いて行い、後半は性格傾向・価値観の評価を

家族、介護職員の協力を得て一緒に行う方式に変えて分析を行った。価値観に合わせたニーズを話し合う事でより細かな部分まで気づきを増やすことができた。

・24時間シートとの連携を強化していき、一日の流れの中で生活動作訓練が行えたことを介護記録内でチェックできるようにし、意識づけをより強化するように努めた。結果的には、24時間シートの記録様式変更の進捗に合わせる予定であったが、変更が難しいことが多かった。今後は日課表など現行様式に合わせて目を通す流れを介護と協力して再考するように図る。

・適切な車椅子、クッションなど使用することで姿勢保持が出来る方法を評価したうえで、正しい姿勢を職員間で共有できるようにチェックリスト化して、安定した活動、行動がとれる様に支援を行う。

研修を一通り行い、動作のチェックリストなどを作成した。個別での姿勢については写真で共有をする方式で継続して行っている。今後は定期的な確認が出来るように考えて行きたい。

・ポジショニングREDを中心に筋緊張の調整を行い、起きる姿勢や座る姿勢の改善を継続して行うことで改善がみられた。介入のタイミングによって効果が違う様子がみられるため、タイミングを見極めて素早く対応できるよう観察機会を増やししながら、家族同意を頂くまでの手順を整理した。

## 栄 養

「一人ひとりに見合った食事の提供をする」を達成するため、モニタリング、アセスメント等で希望を伺い現状を把握し召し上がれる範囲で要望を取り入れ、カンファレンス等で評価を行い入居者が望まれる食事の提供を目指した。

ユニット炊飯については、3月から全ユニットで昼食の炊飯が始まった。今後はマニュアルの作成やユニット炊飯の意義を周知しながら3食ユニット炊飯が出来る様にしていく。

母の日、父の日、敬老の日、お正月は松花堂弁当の提供。8月の夏祭、12月のクリスマス会等の行事に合わせた食事の提供を行った。各県の郷土料理メニューは日本一周したので、各ユニットから出たリクエストを活かしたリクエストメニューの提供を実施している。その他、各ユニット単位の企画として外食に行ったり、出前で外食気分を味わって頂いたり、おやつバイキング、おやつレク等を行った。

定期的なアンケート調査から入居者のお好みを伺い献立に反映することができた。外部の勉強会で学んだことを「栄養まめ情報」として配信した。

## 介護支援専門員

・介護職員がアセスメント作業に参加することで、入居者がどのような生活を抱え、何を必要としているのかをより深く把握できるようになってきた。加えて、多職種の見立て・着眼点を理解し相互理解や連携の潤滑油となっている印象を受ける。課題としては、介護職員一人ひとりの力量差が明確になってきていること、日常的に科学的な介護の結果をもたらしていても、エビデンスを各自で獲得できていない様子が覗えるという点が明らかになった。

・次の目標として、アセスメント作業を掘り下げていく作業を通じ、介護職員一人ひとりがアセスメントを行い、入居者主体の介護目標を設定するまでの作業を自ら説明していく場を設けることで、「知る」状態から「伝える」状態の知識にまで昇華できる職員を増やし、伝える力を持った職員の育成を通じて 介護力の底上げに繋げていきたい。

## 生活相談員

### ・新規入所された方への対応

開所 6 年目になる平成 28 年度は、20 名の方々の 2 件の在宅復帰と長期療養を含む退所が発生し、18 名の方々が新規に入所された。前年度も同じ考察をしたが、入所申込みされた方の特徴として、横浜市の入所申込みシステムにより最大 5 つの施設の施設申し込みをされ、当苑の入所申込み者は、複数の施設から声がかかっており、「施設を選べる」状態になっている。その結果、速やかな入所調整を進めるため、入所申込みデータが届いた毎月 25 日の即日に面談・入所調整を行っても、実際の入所までに時間を要することがかなりあった。その結果、今年度の空床が発生し入所に至るまでの平均日数は、平成 27 年度と比較し 6.2 日間延び 19.9 日となってしまった。

### ・安心した生活が営める支援に向けて

入居者の居室やユニットを意識的に訪問し、面会前後の家族に施設利用に関してのニーズの把握に努めた。

また、新規で入居を希望されている方とその家族には、入所後の不安や行き違いを解消すべく入所前の説明を昨年同様、わかりやすく丁寧に行った。安心した生活が営めるように支援したことも本年度の特徴であり、今後も継続して行きたい。更に、旭区介護相談員事業の協力を経て、それぞれの入居の潜在的な生活課題や、職員では気が付きにくい入居者目線の細かな部分に改善を努めることができたと考える。

### ・行政機関や他事業者との連携

居宅支援事業者との連携により、新規入所される方が、安心して陽光苑での生活が営めるように情報の共有、協力医療機関との充実した連携を図った。また、実際の入所には繋がらなかったが、緊急本入所の要請に応えるべく調整にも臨んだ。

### ・地域連携

本年度も子供会の行事に参加協力や、民生委員及び地域ケアプラザ主催の見学会で社会資源となる入所施設の理解を深めていただけるような見学説明会の場を作り、開かれた施設を目指して臨んだ。

また、近隣施設の連絡会にて情報交換に積極的に臨んだ。

### ・専門職としての自己研鑽

施設内研修を始め、外部研修にも積極的に参加し、専門職の知識や技術を深められるよう努めた。

## ショートステイ

### ・安定したサービス提供を維持

ショート担当ユニットと受け入れ窓口となる生活相談員やケアマネージャーの細やかな対応により、安定したサービス提供が行えた。特に、継続して利用されている方々の、加齢や心身状態変化に伴い、在宅での介護負担が増加してきている。利用者やその家族からも利用日数を増やすのであれば、慣れている施設を利用したいというニーズに応えられるようになり、1回の予約で利用日数が増え、利用予約も増加してきた。

本年度は、開設以来、初めてインフルエンザ感染症により、1月に1週間程度の受け入れ停止を行い、一時稼働率が下がったが、普段からの関わりにより、稼働率が上昇傾向になった。

・空床利用について

ショート担当ユニットが満床の場合、入院加療中の入居者及び、家族の協力により空床ベッドの有効活用を積極的に行なうことができた。また、急な入所要請に対し、各部門の協力により昨年以上にスムーズな受け入れ調整が可能となり、地域のニーズに対応できるようになった。

また、当日予約・利用の場合、本年は居宅ケアマネージャーと連携・調整を図り、「緊急受入加算」の算定を的確に行えた。